

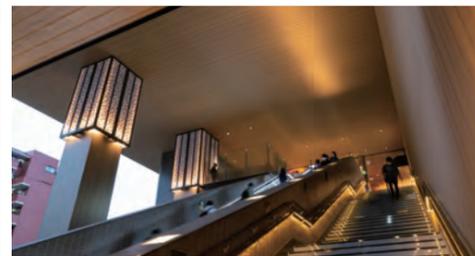
「お会式桜」をモチーフとした行灯と列柱・大庇で街に開く池上駅北口



北口全景



北口全景夜景



大庇と列柱の大空間を昇降する北口



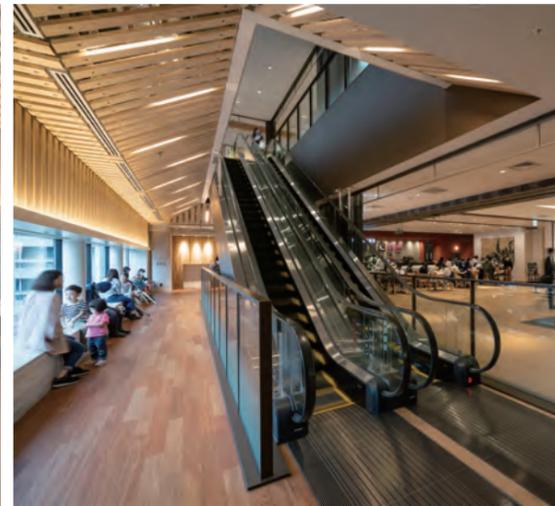
南口夜景



改札を出ると池上本門寺への参道の雰囲気表現した「池上仲見世」



電車を夢中に見下ろす子供たち



4階図書館とカフェ、エスカレーター脇は窓際にベンチを設置

東急池上線池上駅

竣工年: 2021
 所在地: 東京都大田区池上 6-3-10
 用途: 駅舎、店舗、公共施設等
 敷地面積: 3,490.48㎡
 建築面積: 2,640.32㎡
 延床面積: 9,525.01㎡
 構造: S造
 規模: 地上5階

池上線は五反田駅から蒲田駅を3両編成で結ぶ生活密着型の生活路線で、各駅は古いながらもヒューマンな木造駅舎で利用者に親しまれてきた。池上には740年の歴史を持つ日蓮宗の大本山「池上本門寺」があり、毎年10月には3日間で30万人が訪れる「お会式（おえしき）」の万灯行列により街が灯りに包まれます。しかしながら、池上線の基幹駅ともいべき池上駅には東急線内で唯一構内踏切が存在しており、橋上駅舎化による安全性の確保とバリアフリー対応が急務となっていた。更に、線路による街の分断解消と、地域の活性化に必要な生活支援、交流拠点としての機能を付与することが求められていました。本プロジェクトではこれらの課題を解決すべく駅と駅ビルの整備と、池上線および地域のDNAを継承、発展させるデザインを実施した。

旧池上駅は平屋の木造駅舎で木のベンチもある古いながらも利用者に愛されていた駅であった。構内踏切の解消のために橋上駅舎に更新することになったが、以前の暖かい雰囲気を残すために、駅舎には多摩産の杉材を多用、間接照明やグラフィックで親しみを再創造することを意識した。ホームには木のベンチも再生している。従来のようにまちを分断し、通過するだけの駅ではなく、まちと人を繋げ、さらにはまちづくりに波及するような駅を目指してデザインを行った。池上は池上本門寺の門前町として栄えてきた歴史があり、このDNAを新しい駅にも生かすため、駅コンコースが参道という意識から「池上仲見世」を設け、北口外観は大庇と列柱、行灯で象徴的な外観を形成して。また、上階には図書館、保育所、医療モール、スーパーなど生活に密着した施設を導入することで、駅利用者だけでなく、地域住民に貢献する施設としている。



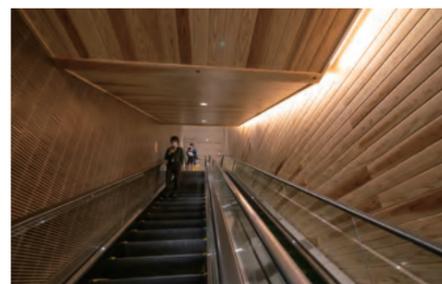
お会式桜を抽象化したデザインの行灯



デザインした紋を暖簾にした「池上仲見世」



木の壁と天井で利用者を柔らかく包むホーム



ホームと改札を結ぶエスカレーター